



2024年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2024年2月7日

上場会社名 ブロードメディア株式会社
コード番号 4347 URL <https://www.broadmedia.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 橋本 太郎

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理本部長 (氏名) 押尾 英明

TEL 03-6439-3983

四半期報告書提出予定日 2024年2月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第3四半期の連結業績(2023年4月1日～2023年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	10,320	6.9	844	9.0	875	8.3	653	18.8
2023年3月期第3四半期	9,653	5.3	774	21.6	808	17.8	549	23.9

(注) 包括利益 2024年3月期第3四半期 667百万円 (12.4%) 2023年3月期第3四半期 594百万円 (31.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第3四半期	89.79	
2023年3月期第3四半期	74.49	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年3月期第3四半期	10,022	5,878	47.4	652.49
2023年3月期	9,948	5,450	43.2	591.40

(参考) 自己資本 2024年3月期第3四半期 4,748百万円 2023年3月期 4,300百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期		0.00		30.00	30.00
2024年3月期		0.00			
2024年3月期(予想)				33.00	33.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	14,200	9.0	850	18.0	880	18.4	630	43.2	86.61

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

詳細については、添付資料5ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年3月期3Q	7,914,732 株	2023年3月期	7,914,732 株
期末自己株式数	2024年3月期3Q	636,893 株	2023年3月期	642,303 株
期中平均株式数(四半期累計)	2024年3月期3Q	7,273,062 株	2023年3月期3Q	7,376,526 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因によって異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	11
(収益認識関係)	13
(重要な後発事象)	15

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは、第1四半期連結累計期間より報告セグメントの区分を「教育」「スタジオ・コンテンツ」「放送」「技術」「その他」から、以下の理由により、新たに「教育」「メディアコンテンツ」「スタジオ・プロダクション」「放送」「技術」「その他」に変更いたしました。

- i) 「スタジオ・コンテンツ」を「メディアコンテンツ」「スタジオ・プロダクション」に分離
 - ii) 投資先であった(株)ポケットを連結子会社化し、「その他」にゲームパブリッシング事業として帰属
- なお、前第3四半期連結累計期間との比較、分析は、変更後のセグメントの区分に基づいております。

当第3四半期連結累計期間における売上高は、前年同期と比べ666,763千円(6.9%)増加し、10,320,401千円(前年同期は9,653,637千円)となりました。「メディアコンテンツ」「スタジオ・プロダクション」「放送」は減収となりましたが、「教育」「技術」「その他」が増収となったことにより、売上高は増加いたしました。

営業利益は、844,942千円(前年同期は774,958千円)となりました。「メディアコンテンツ」「その他」が損失を計上し、「スタジオ・プロダクション」「放送」が減益となったものの、「教育」「技術」が増益となったことが全体を牽引し、増益となりました。

経常利益は、875,540千円(前年同期は808,412千円)となりました。営業利益の増加に加え、為替差益を計上したこと等により、経常利益も増益となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益は、653,047千円(前年同期は549,493千円)となりました。経常利益が増加したことに加え、前年同期に発生した外国映画の配給事業からの撤退に係る棚卸資産の評価減がないことから、親会社株主に帰属する四半期純利益も増益となりました。

(2023年12月31日現在)

セグメントの名称	事業内容	主な業務の内容	主な連結子会社
教育	通信制高校	・イーラーニングシステムを利用した単位制・広域通信制高校 「ルネサンス高等学校グループ」(「ルネサンス高等学校」 「ルネサンス豊田高等学校」「ルネサンス大阪高等学校」)の運営	—
	日本語教育	・日本語研修・日本語教師養成講座を提供する「ルネサンス日本語学院」の運営	—
メディアコンテンツ	デジタルメディアサービス	・マルチデバイス向けコンテンツ配信サービス「クランクイン!ビデオ」 「クランクイン!コミック」の提供 ・エンタメ・情報サイト「クランクイン!」「クランクイン!トレンド」の企画・運営	—
	コンテンツ販売事業	・テレビ放映権の販売、VOD権の販売、DVD/Blu-rayの販売 ・劇場映画の製作・配給	—
スタジオ・プロダクション	制作事業	・日本語字幕・吹替、難聴者向け字幕、視覚障害者向け音声解説、番組宣伝等の制作	—
放送	釣り専門チャンネル	・衛星基幹放送事業「BS釣りビジョン」の番組制作、放送及び、ケーブルテレビ局等への番組供給 ・映像の受託制作	(株)釣りビジョン
	釣りビジョンVOD	・「釣りビジョン倶楽部」の運営 ・動画コンテンツ提供事業者向けの釣りコンテンツの提供	
技術	アカマイサービス	・コンテンツを最適な形で配信する「CDNサービス」、 「セキュリティサービス」の提供	—
	クラウドソリューション	・クラウドゲームサービスの提供 ・通信事業者へのクラウドゲームプラットフォーム提供及びゲーム事業者へのクラウドゲーム機能提供 ・スマートフォン向けクラウドゲームアプリの提供	Oy Gamecluster Ltd.
	デジタルシネマサービス	・ブロードメディア*CDN for theaterの提供、及び上映システムの設計・販売及びレンタル ・映画館へデジタル機材の導入を推進する配給・興行向けVPFサービスの提供	—

セグメントの名称	事業内容	主な業務の内容	主な連結子会社
技術	ホスピタリティ・ネットワーク	・ホテルの客室・会議室へのインターネットサービスの提供、機器の監視及び保守サービスの提供	—
	システム開発	・設計からソフトウェア開発、保守運用までワンストップのシステム開発の提供	システムデザイン開発㈱
	その他ソリューションサービス	・グローバルに展開されたプライベートネットワーク「Aryaka」等の提供 ・画像解析技術を駆使した小売業向け次世代型AIソリューション「Vue.ai」の提供 ・CM素材をオンラインで搬入する「CMオンラインサービス」の提供	—
その他	プロeスポーツ推進事業	・プロeスポーツチーム「CYCLOPS athlete gaming」の運営 ・eスポーツ関連イベントの企画・運営	ブロードメディアeスポーツ㈱
	ゲームパブリッシング事業	・Nintendo Switch向けのゲームソフトやVR専用ソフト等の企画・開発・販売及び配信	㈱ポケット
	ネットワーク営業	・通信キャリア等の通信商材の取扱	—
全社費用	・ブロードメディア㈱本社の管理業務（人事総務、財務経理、法務等）及びグループ会社の統括管理 ・グループ全体の支援（生産性向上・効率化・ガバナンス強化等）	—	
持分法適用関連会社（注）	・全テレビ番組録画機の企画・製造・販売、及びテレビ番組ソーシャルサービスの運営	ガラボン㈱	

(注) 「持分法適用関連会社」に含まれる事業は、報告セグメントには含まれておりません。

当第3四半期連結累計期間における各セグメントの売上高及び営業損益の概況は、以下のとおりです。

①教育

「教育」セグメントは、「ルネサンス高等学校」「ルネサンス豊田高等学校」「ルネサンス大阪高等学校」の広域通信制高校（ルネサンス高等学校グループ）の運営、日本語研修・日本語教師養成講座を提供する「ルネサンス日本語学院」の運営を行っております。

売上高は、前年同期と比べ661,096千円（26.2%）増加し、3,185,757千円（前年同期は2,524,660千円）、営業利益は985,467千円（前年同期は789,424千円）となりました。

ルネサンス高等学校グループの生徒数が8期連続で過去最高を更新したことにより、増収増益となりました。また、新たなキャンパスの開校や既存拠点の拡大により、eスポーツコースの受講生が順調に増加したことも増収増益に寄与いたしました。日本語教育事業は、日本語教師養成講座の受講生は増加しているものの、プロモーション費用等が先行いたしました。

②メディアコンテンツ

「メディアコンテンツ」セグメントは、マルチデバイス向けのコンテンツ配信サービス「クランクイン！ビデオ」「クランクイン！コミック」やエンタメ・情報サイト「クランクイン！」「クランクイン！トレンド」の企画・運営、映画やテレビドラマ、アニメ等映像作品の権利を買付け、テレビ局への番組放映権の販売や劇場配給、VOD権の販売、DVD/Blu-rayの販売等を行っております。

売上高は、前年同期と比べ95,675千円（16.7%）減少し、475,881千円（前年同期は571,556千円）、営業損益は134,393千円の損失（前年同期は205,958千円の損失）となりました。

デジタルメディアサービスはコンテンツ配信サービスが減収となったものの、広告収入が回復したことやコストの抑制効果により、赤字幅が縮小いたしました。コンテンツ販売事業はテレビ向け番組販売が減少いたしました。その結果、「メディアコンテンツ」セグメントは減収となりましたが、営業損失は縮小いたしました。

③スタジオ・プロダクション

「スタジオ・プロダクション」セグメントは、海外の映画及びテレビ作品の日本語字幕・吹替制作、難聴者向け字幕制作、視覚障害者向け音声解説制作、番組宣伝等の制作を行っております。

売上高は、前年同期と比べ87,791千円（6.1%）減少し、1,359,137千円（前年同期は1,446,929千円）、営業利益は72,546千円（前年同期は131,397千円）となりました。

日本語字幕・吹替制作は、海外ドラマシリーズ等の売上計上がシリーズ全話納品後の一括計上に変更となり、第1四半期が減収となった影響や、当第3四半期において米国ハリウッドの全米脚本家組合（WGA）や全米映画俳優組合

(SAG-AFTRA) のストライキの影響を受けたことにより、減収となりました。また、人件費等のコストが増加いたしました。その結果、「スタジオ・プロダクション」セグメントは、減収減益となりました。

④放送

「放送」セグメントは、釣り専門番組「釣りビジョン」の制作、BS・CS放送及びケーブルテレビ局等あての番組供給事業、マルチデバイス向け動画配信サービス「釣りビジョンVOD」の視聴が可能な「釣りビジョン倶楽部」の提供等を行っております。

売上高は、前年同期と比べ107,546千円(5.7%)減少し、1,770,719千円(前年同期は1,878,266千円)、営業利益は73,932千円(前年同期は161,048千円)となりました。

「釣りビジョン倶楽部」の売上は増加したものの、「釣りビジョン」の視聴料収入の減少傾向が続いていることやスポンサー収入が減少した影響を補いきれず減収減益となりました。

⑤技術

「技術」セグメントは、アカマイサービス(CDNサービス、セキュリティサービス)、クラウドソリューション、デジタルシネマサービス、ホテルの客室・会議室へのインターネットサービス、システム開発、及びその他ソリューションサービスの提供を行っております。

売上高は、前年同期と比べ215,671千円(7.0%)増加し、3,306,436千円(前年同期は3,090,764千円)、営業利益は386,423千円(前年同期は365,451千円)となりました。

主力のアカマイサービスは既存顧客へのサービス提供の拡大が続いていること等により増収となりました。クラウドソリューションは提携先プラットフォームのサービスが終了したこと等により、赤字幅が拡大いたしました。システム開発は機材販売や保守等が増加し、増収となったことに加え、グループ内の各事業のDX化に貢献しております。その結果、「技術」セグメントは増収増益となりました。

⑥その他

「その他」セグメントは、プロeスポーツチーム「CYCLOPS athlete gaming」の運営やeスポーツ関連イベントの企画・運営、Nintendo Switch向けのゲームソフトやVR専用ソフト等の企画・開発・販売および配信、通信キャリア等の通信商材の拡販が含まれております。なお、第1四半期連結累計期間より(株)ポケットを子会社化し、「その他」セグメントに含めております。

売上高は、前年同期と比べ81,008千円(57.3%)増加し、222,468千円(前年同期は141,459千円)、営業損益は6,224千円の損失(前年同期は17,026千円の損失)となりました。

プロeスポーツ推進事業は、事業(賞金・配信収入・スポンサー収入等)が立ち上げ段階であり、大会の出演料は増加したものの、賞金や配信収入が減少したこと等から減収となり、前年同期と同水準の営業損失を計上いたしました。ゲームパブリッシング事業はNintendo Switch向けゲームソフト「うちトレ」を第3四半期にリリースしたこと等により売上を伸ばし、営業利益を計上いたしました。ネットワーク営業は通信商材の代理店契約の終了に伴う清算金を受領いたしました。その結果、「その他」セグメントは増収となり、営業損失が縮小いたしました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(イ) 資産

流動資産は、売掛金や仮払金が増加した一方、現金及び預金が減少したこと等により、前期末に比べ58,257千円減少し、7,742,538千円となりました。固定資産は、通信制高校事業の拠点拡大に伴う資産の取得があったことや(株)ポケットの子会社化に伴いのれんが増加したこと等により、前期末に比べ131,612千円増加し、2,279,718千円となりました。これらの結果、総資産は、前期末に比べ73,354千円増加し、10,022,256千円となりました。

(ロ) 負債

流動負債は、預り金や未払金が増加した一方、前受金や賞与引当金が減少したこと等により、前期末に比べ367,467千円減少し、3,890,870千円となりました。固定負債は、長期リース債務が増加したこと等により、前期末に比べ12,764千円増加し、252,568千円となりました。これらの結果、負債合計は、前期末に比べ354,703千円減少し、4,143,439千円となりました。

(ハ) 純資産

配当金の支払いがあった一方、親会社株主に帰属する四半期純利益653,047千円を計上したこと等により、純資産合計は前期末に比べ428,058千円増加し、5,878,817千円となりました。これにより、自己資本比率は47.4%となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第3四半期末における現金及び現金同等物の残高は、前期末に比べ1,219,149千円減少し、4,647,818千円となりました。

(イ) 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、プラス124,032千円（前年同期はマイナス133,580千円）となりました。前受金の減少や売上債権の増加があった一方、税金等調整前四半期純利益852,735円を計上したことに加え、預り金が増加したこと等により、営業活動によるキャッシュ・フローはプラスとなりました。

(ロ) 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、通信制高校事業の拠点拡大に伴う固定資産の取得や、子会社株式の取得に係る支出があったこと等から、マイナス989,071千円（前年同期はマイナス239,638千円）となりました。

(ハ) 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払いに加え、リース債務の返済や社債の償還による支出があったこと等から、マイナス364,674千円（前年同期はマイナス345,298千円）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社は、2023年5月9日に公表した通期の連結業績予想を以下のとおり修正いたします。

1. 2024年3月期通期 連結業績予想数値の修正（2023年4月1日～2024年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	14,300	1,200	1,200	1,000	137.46
今回修正予想 (B)	14,200	850	880	630	86.61
増減額 (B-A)	△100	△350	△320	△370	—
増減率 (%)	△0.7	△29.2	△26.7	△37.0	—
(参考) 前期実績 (2023年3月期)	13,023	1,036	1,079	1,110	150.67

2. 修正理由

<売上高>

2024年3月期第3四半期連結累計期間までは前回予想に対して若干弱含みながらも概ね想定通りに推移いたしました。しかしながら、第4四半期会計期間において、連結子会社化した(株)divおよび(株)divxの業績を取り込む一方、「教育」以外の全てのセグメントが期初の想定を下回ることを見込んでいることから、前期実績は上回る見込みではあるものの、売上高全体では前回予想から若干の減少となる見込みです。

<営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益>

営業利益は、「教育」が期初の想定を上回ることを見込む一方、「スタジオ・プロダクション」や「放送」が期初の想定を大きく下回ることを見込んでおります。また、(株)divおよび(株)divxが損失を計上することを見込んでいることや、のれんの償却やM&A関連のコストが発生すること等により、前回予想を下回る見込みとなりました。

これに伴い、経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益についても前回予想を下回る見込みとなりました。

(注) 上記の業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因によって異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,869,218	4,647,818
受取手形及び売掛金	1,064,550	1,438,303
商品及び製品	9,934	23,207
仕掛品	140,546	174,246
原材料及び貯蔵品	4,139	3,838
番組勘定	300,600	293,593
その他	423,662	1,165,137
貸倒引当金	△11,857	△3,606
流動資産合計	7,800,795	7,742,538
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	305,170	354,098
工具、器具及び備品(純額)	190,059	221,859
その他(純額)	241,370	250,487
有形固定資産合計	736,600	826,445
無形固定資産		
のれん	113,898	208,781
その他	124,342	106,561
無形固定資産合計	238,240	315,342
投資その他の資産		
投資有価証券	121,230	157,325
破産更生債権等	545,286	546,669
その他	1,090,633	1,008,066
貸倒引当金	△583,886	△574,130
投資その他の資産合計	1,173,264	1,137,930
固定資産合計	2,148,106	2,279,718
資産合計	9,948,902	10,022,256

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	482,907	451,214
短期借入金	503,724	502,004
1年内償還予定の社債	65,000	40,000
未払法人税等	80,090	50,663
前受金	2,054,535	1,115,857
賞与引当金	283,513	116,291
その他	788,567	1,614,839
流動負債合計	4,258,337	3,890,870
固定負債		
社債	60,000	40,000
その他	179,804	212,568
固定負債合計	239,804	252,568
負債合計	4,498,142	4,143,439
純資産の部		
株主資本		
資本金	600,000	600,000
資本剰余金	15,207	23,074
利益剰余金	4,320,261	4,755,136
自己株式	△642,295	△637,942
株主資本合計	4,293,173	4,740,268
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	7,710	8,429
その他の包括利益累計額合計	7,710	8,429
非支配株主持分	1,149,875	1,130,119
純資産合計	5,450,759	5,878,817
負債純資産合計	9,948,902	10,022,256

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
売上高	9,653,637	10,320,401
売上原価	5,974,597	6,177,023
売上総利益	3,679,039	4,143,377
販売費及び一般管理費	2,904,081	3,298,435
営業利益	774,958	844,942
営業外収益		
受取利息	974	194
受取配当金	126	126
為替差益	4,578	13,841
貸倒引当金戻入額	11,270	13,705
持分法による投資利益	14,764	-
その他	11,777	12,171
営業外収益合計	43,491	40,039
営業外費用		
支払利息	8,812	7,872
持分法による投資損失	-	1,305
その他	1,224	263
営業外費用合計	10,036	9,442
経常利益	808,412	875,540
特別損失		
減損損失	1,675	7,205
投資有価証券評価損	-	15,600
事業撤退損	110,582	-
特別損失合計	112,257	22,805
税金等調整前四半期純利益	696,154	852,735
法人税、住民税及び事業税	93,136	98,743
法人税等調整額	9,729	86,813
法人税等合計	102,865	185,557
四半期純利益	593,288	667,178
非支配株主に帰属する四半期純利益	43,795	14,130
親会社株主に帰属する四半期純利益	549,493	653,047

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益	593,288	667,178
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	817	719
その他の包括利益合計	817	719
四半期包括利益	594,106	667,897
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	550,311	653,767
非支配株主に係る四半期包括利益	43,795	14,130

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	696,154	852,735
減価償却費	157,600	168,263
減損損失	1,675	7,205
のれん償却額	16,113	25,439
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△14,027	△18,005
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△183,438	△167,222
受取利息及び受取配当金	△1,101	△320
支払利息	8,812	7,872
持分法による投資損益 (△は益)	△14,764	1,305
投資有価証券評価損益 (△は益)	-	15,600
売上債権の増減額 (△は増加)	△470,877	△372,258
棚卸資産の増減額 (△は増加)	187,407	△39,449
仕入債務の増減額 (△は減少)	△132,526	△34,654
未払又は未収消費税等の増減額	△205	45,631
その他の資産・負債の増減額	69,479	△262,096
その他	△3,913	△2,743
小計	316,387	227,304
利息及び配当金の受取額	209	248
利息の支払額	△8,187	△7,355
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△441,989	△96,165
営業活動によるキャッシュ・フロー	△133,580	124,032
投資活動によるキャッシュ・フロー		
固定資産の取得による支出	△179,965	△129,473
投資有価証券の取得による支出	-	△80,000
貸付けによる支出	△47,000	-
貸付金の回収による収入	11,250	11,250
その他	△23,923	△790,848
投資活動によるキャッシュ・フロー	△239,638	△989,071
財務活動によるキャッシュ・フロー		
借入金の返済による支出	△9,076	△3,056
社債の償還による支出	△45,000	△45,000
リース債務の返済による支出	△52,166	△55,365
自己株式の取得による支出	△7,943	△10,655
配当金の支払額	△182,704	△216,711
非支配株主への配当金の支払額	△48,408	△33,886
財務活動によるキャッシュ・フロー	△345,298	△364,674
現金及び現金同等物に係る換算差額	11,587	10,563
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△706,930	△1,219,149
現金及び現金同等物の期首残高	5,301,579	5,866,968
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	17,510	-
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,612,160	4,647,818

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

2023年7月28日開催の取締役会において、譲渡制限付株式報酬としての自己株式の処分について決議し、自己株式の処分を行いました。この結果、単元未満株式の買取による増加も含め、自己株式が4,352千円減少し、資本剰余金が7,867千円増加しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント							全社	合計
	教育	メディア コンテンツ	スタジオ・ プロダク ション	放送	技術	その他	計		
売上高	2,524,660	571,556	1,446,929	1,878,266	3,090,764	141,459	9,653,637	—	9,653,637
セグメント利益 又は損失(△)	789,424	△205,958	131,397	161,048	365,451	△17,026	1,224,336	△449,378	774,958

(注) セグメント利益又は損失(△)における「全社」は、報告セグメントに帰属しない共通費用であります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

報告セグメントの利益又は損失の合計額と四半期連結損益計算書の営業利益に差額があります。その差額の内容は報告セグメントに帰属しない共通の費用であり、グループ本社(ブロードメディア(株))の管理部門に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「技術」セグメントにおける事業用資産について、減損損失を認識いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において1,675千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント							全社	合計
	教育	メディア コンテンツ	スタジオ・ プロダク ション	放送	技術	その他	計		
売上高	3,185,757	475,881	1,359,137	1,770,719	3,306,436	222,468	10,320,401	—	10,320,401
セグメント利益 又は損失(△)	985,467	△134,393	72,546	73,932	386,423	△6,224	1,377,752	△532,810	844,942

(注) セグメント利益又は損失(△)における「全社」は、報告セグメントに帰属しない共通費用であります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

報告セグメントの利益又は損失の合計額と四半期連結損益計算書の営業利益に差額があります。その差額の内容は報告セグメントに帰属しない共通の費用であり、グループ本社(ブロードメディア(株))の管理部門に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「メディアコンテンツ」及び「技術」セグメントにおける事業用資産について、減損損失を認識いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において5,899千円および1,306千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

「その他」セグメントにおいて(株)ポケットの株式を取得したことにより、同社を連結子会社としました。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間において120,322千円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

4. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループはこれまで、「教育」「スタジオ・コンテンツ」「放送」「技術」「その他」の5つのセグメントに事業を区分しておりましたが、第1四半期連結累計期間より、「教育」「メディアコンテンツ」「スタジオ・プロダクション」「放送」「技術」「その他」の6つのセグメントに変更致しました。

(1) 「スタジオ・コンテンツ」を「メディアコンテンツ」、「スタジオ・プロダクション」に分離

(2) 投資先であった(株)ポケットを連結子会社化し、「その他」にゲームパブリッシング事業として帰属
なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後のセグメントの区分に基づき作成しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

(単位:千円)

	独自商製品等の ストック収益	独自商製品等の フロー収益	独自商製品以外 のストック収益	独自商製品以外 のフロー収益	外部顧客への 売上高
教育	2,524,660	-	-	-	2,524,660
メディアコンテンツ	-	135,590	331,425	104,539	571,556
スタジオ・プロダクション	-	1,446,929	-	-	1,446,929
放送	1,523,089	355,176	-	-	1,878,266
技術	270,409	346,226	2,448,312	25,816	3,090,764
アカマイサービス	-	-	2,392,617	-	2,392,617
その他	270,409	346,226	55,694	25,816	698,147
その他	30,517	93,738	-	17,203	141,459
合計	4,348,678	2,377,660	2,779,737	147,560	9,653,637

(注) 独自商製品等のストック収益とは、教育サービス・「放送」の視聴料・「技術」の企業向けクラウドサービス等、オリジナルサービスの提供等に伴う収益が該当し、原則継続的に積み上がる収益です。

独自商製品等のフロー収益とは、「スタジオ・プロダクション」や「放送」の制作・広告・スポンサーの収入等、オリジナルサービスの提供等に伴う収益が該当し、都度計上される収益です。

独自商製品以外のストック収益とは、「メディアコンテンツ」のコンテンツ配信や「技術」のアカマイサービス等、第三者が原権利を有している商製品の提供等に伴う収益が該当し、原則継続的に積み上がる収益です。

独自商製品以外のフロー収益とは、「メディアコンテンツ」の番組販売等、第三者が原権利を有している商製品の提供等に伴う収益が該当し、都度計上される収益です。

当第3四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年12月31日）

(単位：千円)

	独自商製品等の ストック収益	独自商製品等の フロー収益	独自商製品以外 のストック収益	独自商製品以外 のフロー収益	外部顧客への 売上高
教育	3,183,107	2,650	-	-	3,185,757
メディアコンテンツ	-	131,620	300,078	44,182	475,881
スタジオ・プロダクション	-	1,359,137	-	-	1,359,137
放送	1,481,588	289,131	-	-	1,770,719
技術	256,705	351,342	2,680,754	17,634	3,306,436
アカマイサービス	-	-	2,605,359	-	2,605,359
その他	256,705	351,342	75,394	17,634	701,076
その他	26,040	162,077	-	34,350	222,468
合計	4,947,442	2,295,958	2,980,832	96,167	10,320,401

(注) 1 独自商製品等のストック収益とは、教育サービス・「放送」の視聴料・「技術」の企業向けクラウドサービス等、オリジナルサービスの提供等に伴う収益が該当し、原則継続的に積み上がる収益です。

独自商製品等のフロー収益とは、「スタジオ・プロダクション」や「放送」の制作・広告・スポンサーの収入等、オリジナルサービスの提供等に伴う収益が該当し、都度計上される収益です。

独自商製品以外のストック収益とは、「メディアコンテンツ」のコンテンツ配信や「技術」のアカマイサービス等、第三者が原権利を有している商製品の提供等に伴う収益が該当し、原則継続的に積み上がる収益です。

独自商製品以外のフロー収益とは、「メディアコンテンツ」の番組販売等、第三者が原権利を有している商製品の提供等に伴う収益が該当し、都度計上される収益です。

2 報告セグメント変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、セグメント情報等に記載のとおり報告セグメントの変更をおこなっております。

なお、前第3四半期連結累計期間の顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、変更後のセグメントの区分に基づき作成しております。

(重要な後発事象)

(株式の取得による会社等の買収)

当社は、2024年1月1日に株式会社div(以下「div社」といいます)の発行済株式の99.9%を取得しました。また、本件株式取得に際し、div社の完全子会社である株式会社divx(以下「divx社」といいます)は当社の孫会社となります。

(1) 株式取得の目的

当社グループは、技術プラットフォームを持つコンテンツ事業者として、独自性の高いサービスの提供を通じ成長を目指すことを経営戦略の基本としており、中長期的に更なる成長を遂げるために、「教育×技術」領域を中心に様々な事業の開発・育成に取り組んでおります。

今般、その施策の一環として、div社の株式を取得し、子会社化することといたしました。同社は、未経験からのエンジニア転職を叶える「テックキャンプ」や、未経験からプログラミングを習得できるスクール「テックキャンププログラミング教養」、法人向け「テックキャンプ法人研修サービス」等目的に応じた様々なプログラミング教育事業を行っております。また同社の完全子会社であるdivx社は、AI技術を活用したスピーディで高品質なソフトウェア開発及びソリューション提供を行っております。

div社が行う事業は、当社グループにとっては新規事業領域であります。高等学校におけるプログラミング教育が必修化されたこと等もあり、当社教育セグメントにおけるルネサンス高校グループとの協業や新規サービスの開発等による双方の更なる成長が期待できます。

また、divx社が行う事業は、当社技術セグメントにおけるエンジニアリソース強化に加え、双方の営業基盤活用等による事業拡大が期待できます。

これらのことから、div社及びdivx社を子会社化することは、当社グループの中長期的な取り組みと合致しており、今後の成長・企業価値向上に寄与するものと判断いたしました。

(2) 株式取得の相手会社の名称

Eight Roads Ventures Japan II L.P.、真子 就有、森トラスト株式会社

上記以外にその他14法人及び7個人より株式を取得しておりますが、株式譲渡契約における守秘義務をふまえ、非開示とさせていただきます。

(3) 買収する相手会社の名称、事業の内容、規模

- ① 被取得企業の名称 株式会社div
- ② 事業内容 プログラミングスクール運営、ITエンジニア紹介サービス等
- ③ 資本金の額 244百万円

(4) 株式取得の時期

2024年1月1日

(5) 取得する株式の数、取得価額及び取得後の持分比率

- ① 取得する株式の数 254,664株
- ② 取得価額 株式譲渡契約における守秘義務により非開示とさせていただきますが、公平性・妥当性を確保するため、第三者機関が算定した株式価値を基に双方協議の上、決定しております。
- ③ 取得後の持分比率 99.9%

(6) 支払資金の調達方法及び支払方法

自己資金により充当